

今週の聖句

「そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた」
ルカによる福音書 24章 51節

ねらい

復活され、弟子たちと再び一緒にいることになったイエスが、彼らと別れ、天に上げられた意味を考える機会とする。また、次週の聖霊降臨祭への準備のときとする。

ポイント

イエスと弟子たちの2度目の別れになる。しかし、1度目の別れ、すなわちイエスの十字架の死による別れと今回とでは弟子たちの姿がまったくと言っていいほど違っている。

豆知識

1) ルカによる福音書の著者と使徒言行録の著者は同じとされている。今日の箇所(ルカによる福音書の最後)と使徒言行録の初めを比べると、同じイエスの昇天の出来事が記されているのがわかる。

2) 「祝福する」という言葉と53節で「ほめたたえる」と訳されている言葉は、同じギリシア語である。イエスの祝福と弟子たちの賛美が対応していることがわかる。しかも、「祝福しながら」離れるイエスと「絶えず～ほめたたえる」弟子たちという祝福と賛美の継続性の対応である。

説教

インターネットで「グーグル・アース」というプログラムを使うことがあります。そのプログラムをスタートさせると、画面の中央にゆっくりと回転しながら地球が現れます。その後は、自由に地球を回転させたり、拡大していろいろな国を見たりすることができます。このようにしていると、何だか神さまの目線で地球を見ているような気持ちになります。

普段、私たちは地球のことを外から見ませんし、自分の見ることができるところだけを見つめて生きています。そして、見ることができるそれらをすべてと思っていることがあります。言い換えるなら、自分の見えないことには関心がないということです。広い世界で起こっているあらゆることよりも、自分の目の前のこと—例えば今晚のおかずのこと、出された宿題のこと、お友だちのことなど—の方が大切なことのように思ってしまう。

でも、「グーグル・アース」を使うように、自分の周りだけを見る視点をぐーっとあげて、世界を見渡してみると、たくさんの人々が家も食べるものもなく、着るものにも不自由していることに気づくのです。また、友だちとケンカをしている自分に対して、世界の同じ子どもたちは、戦争や争いの中でとても怖い思いをしていることを知るので。

「グーグル・アース」を使うたびに私は、神さまは世界中のあらゆることを知っておられるのだと、改めて感じます。

今日、イエスさまは「祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた」とあります。イエスさまと一緒にいてくださることは、とても嬉しいことですが、イエスさまが天に上げられ、世界中のことをわかってもらうことも嬉しいですね。自分のためにだけ、イエスさまにいてもらうので

はなくて、世界中のお友だちのためにも、イエスさまはいてくださるのです。たくさんの悲しみ、痛み、悩みなどなど、私たちの目に映らない世界中の事柄をイエスさまは見てくださるのです。イエスさまは私たちだけではなく、世界中の人々を祝福するために天に上げられました。そして、弟子たちが大喜びで、絶えず神をたたえていたように、私たちも世界中の人々の悲しみや痛みを知って、それでもイエスさまがその人たちを祝福し続けておられることをも知って、その神さまをほめたたえるのです。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は ” こどもさんびか ” (日キ版) より

6 番
改訂 9 2 番

やってみよう



イエスさまが立っておられる姿を紙に(A4 くらい大きさ)描いて切り抜き、色を塗る。予め教師が描いておいたものを切り抜いても良いし、幼児の場合は切り抜いたものを1人1人に渡してこどもが色だけ塗っても良い。

1、イエスさまの頭に30cm くらいの糸を付ける(セロテープで貼付ける)

2、ゴム風船を用意して膨らませ、糸の端を風船にくくり付ける。

3、イエスさまはどんなにして天に上って行かれたのかなあ、と風船を上について遊ぶ。

一つの風船をみんなについて遊んでも良いし、それぞれこどもに一つずつ風船があっても楽しい。

話してみよう

一度目の別れと今回の別れで、弟子たちの姿がちがうところはどこですか？

それはなぜでしょう？

今、世界で起こっていることについて話してみましよう。争いが起こっている国と地域、食べるものが足りなくて困っている国と地域、子どもたちが学校に行けないで働いている国と地域など。(可能なら、グーグル・アースでみてもいいですね。)

そして、それらの問題はどのように起こると思いますか？

あなたは何かができると思いますか？

今週の聖句

「渴いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい」
ヨハネによる福音書 7章 37節

ねらい

「渴く」ということについて考えるときとする。

- 1) どのような人が渴いている人であるか。
- 2) 自分は渴いているのか、それとも渴いていないのか。
- 3) 自分が渴いていると思うのは、どういう時か。
- 4) イエスの言われる「渴き」と私たちの「渴き」の違いはなにか。

ポイント

今日イエスは「渴いている人」を招いておられるが、信じている人など特定の人を対象にしているのではなく、「だれでも」と言われている。つまり、重要なことはその人自ら「渴いている」ことに気づいているということである。

豆知識

イエスは「霊」について言われたとある。人が創られたとき、「その鼻に命の息（霊）を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。（創世記2章7節）」とある。「渴いている」状態とは、この「命の息」「霊」に渴いている私たちの状態であり、私たちのいのちの危険である。

説教

人間の体は大人の人で体重の60%が水だと言われます。子どもは体重の70%にもなるそうです。たくさんの水で出来ているだけではなく、水が足りなくなると、その体に影響が現われ、4～5日一滴の水も飲まないで死んでしまうこともあるそうです。水が足りなくなると、喉が渴くだけではなく、汗が出なくなるので、熱が上がってしまうというのです。（水と生命「人間と水」 水大事典 水と生きる SUNTORY のウェブサイトより）

毎年、夏になると「熱中症」による脱水症状になって救急車で病院に運ばれるたくさんの方が出てきますね。この「脱水症状」ですが、体の水分が不足することが主な原因なのですが、多くの人は早めに気づくことができないで、倒れてしまうことがあるようです。こま目に水分を補給するなど対策はあるのですが、それでも倒れてしまう人が後を絶ちません。はたから見ていますと、どうしてもっと早く、水分を補給しないのだろうと思ってしまいますが、自分に水分が不足しているということに誰もが、意外に気づきにくいようです。

「自分が渴いていることに気づかない」。このことは、水分についてだけではなく、さまざまな足りなさについても、私たちは気づかないでいる点で共通しているように思います。誰もがいろいろなきが足りなくて、困った一人ひとりであるのに、そのことに気づかないで、後でたいへんなことになるということもあるのです。はたから見ると、「どうしてもっと早く」と思えても、当の本人は気づかないということが、私たちの間には多いのです。

そのような私たちに向かってイエスさまは「渴いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい」と言われています。私たちは何に渴いているのでしょうか？ そして、イエスさまが「渴いている人はだれでも」と言われるように、たくさんの人が渴いているのです。喉が渴いているなら水を飲めばいいのですが、ここで言われているあらゆる「渴き」については、イエスさまのところに行って飲むしかないのです。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は " こどもさんびか " (日キ版) より

36番
改訂120番

やってみよう

水の入ったやかんかポットを用意する
それが隠れるくらいの紙にイエスさまの上半身(全身でも良い)を描く。
ちょうど胸のあたりからやかんの注ぎ口がでるように少し穴を開ける。

イエスさまは渴いているものは誰でも私のところにきて飲みなさい、と言われました。今日はイエスさまから命の水を頂きましょう。
と言ってこどもたち一人一人にコップを持たせて水を入れてあげる。
ジュースもありかな？

イエスさまから頂いた水は美味しい？
お弟子さんたちはどんな水を頂いたんだろうねえ。
と話し合う。

話してみよう

イエスさまの言われる「渴いている」とは、どういうことだと思いますか？
あなたが「渴いている」と感じたことについて、話してみよう。
あなたの周りの中で、「渴いている」と思う人のことを考えてみよう。
どうしたら「渴いている」人をイエスさまのところに連れて行くことができますか？

今週の聖句

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」
マタイによる福音書 28章20節

ねらい

イエスの誕生に際して、インマヌエル、「神は我々と共におられる」と呼ばれると告げられていた。そのイエスが今や「世の終わりまで共にいる」と言われている意味を考える。また、聖霊降臨の出来事と三位一体の神について考える。

ポイント

- 1) 「いつも共にいる」という約束のうちに生かされている自分を知る。
- 2) 「世の終わりまで」共にいるという約束の意味を知る。

豆知識

イエスがお生まれになる際、「その名はインマヌエルと呼ばれる。それは神は我々と共におられるという意味である。」と告げられていた。今、そのイエスは「世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」と約束されている。

説教

確か児童文学作家の灰谷健次郎さんが、本の中で紹介していた一人の子どもが心に残っています。おおよそ次のような内容でした。

「お母さんの『気をつけてね』の声、学校までついてきた。」

お母さんが心配して、子どもに言葉をかけたことが伝わってきましたし、また、お母さんの声を聞いたその子どもも、その言葉に守られるようにして、学校に行った様子も伝わってくる思いがしました。

もちろん、お母さんの声は家を出るときにかけられたもので、学校まで来ることはないのですが、その声が耳に残って、その声に励まされて学校に行ったのでしょう。まだ、学校に行くのが不安な1年生の作品のような気がしてきます。

イエスさまがお生まれになる前に天使は「『その名はインマヌエルと呼ばれる。』この名は、『神は我々と共におられる』という意味である。」(マタイ1章23節)と告げました。イエスさまは、神さまが私たちと一緒にいるために、私たちの間に来てくださったのです。そして今、同じ福音書の最後の場面で、イエスさまは弟子たちを世界に送り出そうとして、言われます。「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。」(マタイ28章19節以下)

そして、次のように続けられました。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

今日は、三位一体の日曜日です。三位一体とは、三つだけど一つということです。父と子と聖霊の神さまは、三つだけどただ一人の神として私たちを愛してくださる方であるということです。イエスさまは、三位一体の神として私たちとずっと一緒にいてくださると約束しておられるのです。

学校に行くのに不安な子どもにかけられたお母さんの言葉が、子どもと一緒に学校まで行って、その子どもを励ましたように、イエスさまは「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」という約束とその約束の言葉によって私たちといつも一緒にいて、励ましてくださるのです。

分級への展開

さんびしよう

* 讃美歌は ” こどもさんびか ” (日キ版) より

35番

改訂124番

やってみよう

部屋の中にお座布団等を重ねて高い山を作りイエスさまになった先生が山の上に座る。お面をつけても良いし、白い布を体に掛けても良い。

イエス様の顔の綺麗なカードを準備しておく。

カードの裏に「あなたはイエスさまの弟子」と書いて置く。

- 1、生徒達は一人ずつ順番に山に登って行って「イエスさま」と言ってひれふす。
- 2、イエスになった先生は「あなたはわたしの弟子」と言ってこどもにカードを渡す。
- 3、一通り終わったらイエスさまの役を変わり合って順番にお友達に「あなたはわたしの弟子」と言ってカードを渡して遊ぶ。
- 4、外ならジャングルジムや滑り台の上を使って階段から上ってカードをもらったら滑っておりても良い。

イエスさまは「私は世の終わり迄いつもあなたがたと共にいる」と言って下さいました。イエスさまはいつも私たちと一緒にいて下さいます。そのことを忘れないようにこのイエスさまのカードを持っていて下さい。

聖書にはさんでおいても良いし、どこかに貼っておいても良いよ。

話してみよう

一人ぼっちで寂しいと思ったときのこと。

どんなときに、誰かに一緒にいてほしいと思いますか？

誰かが一緒にいてくれて嬉しいと思ったときのこと。

あなたが誰かと一緒にいて、嬉しいと言われたことはありますか？ それはどんなときで、相手の人はなぜ嬉しいと言ったのでしょうか？

イエスさまがあなたと一緒にいるとは、どういうことでしょうか？

周囲の人でイエスさまと一緒にいることを教えたい人のことを考えてみよう。

今週の聖句

「すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ」
マタイによる福音書 7章 17節

ねらい

良いものから良いものが生じるとは、どういうことか考える機会とする。

ポイント

- 1) 良い木とは誰で、良い実を結ぶのは誰か？ 悪い木が悪い実を結ぶのはなぜか？
- 2) 「わたし」は一体どこにいるのか？

豆知識

「良い木」の「良い」と「良い実」の「良い」は、違う言葉の訳である。前者は「善い方はおひとりである」（マタイ 19章 17）、「わたしの気前のよさ」（マタイ 20章 15）がそれにあたり、後者は「良い実を結ばない木は」（マタイ 3章 10）、「あなたがたの立派な行い」（マタイ 5章 16）がそれにあたる。これらと比較すると、前者は主に神に関する「良さ」であり、後者は主に人に関する「良さ」であることが想像される。

説教

カード（メモ帳）とマジック（ペン）を用意する。

カード（メモ帳）は、余裕があるなら何かの「実」の形になっていると楽しい。

あらかじめ、神さまから出る言葉を一枚につき一つずつ書いておく。

私たちは、お友だちやお家の人、学校の先生などいろいろな人とお話しをしていますね。先週の皆さんを思い出してください。誰とどんな言葉を交わしましたか？

（それぞれ言葉を出してもらい、カード一枚に一つの言葉を書いていく。子どもたちからなかなか言葉が出ないときには、いろんな場面をあげながら、またそこで語られそうな言葉をあげて、助ける。）

「おはよう」「キライ」「イヤだ」「ありがとう」「うるさい」などなど…。

（あらかじめ用意しておいたカードも含めて）

たくさんのカードができました。これらの言葉が「良い」ものなのか、「悪い」ものなのか考えてみましょう。（一つひとつのカードを読み上げながら、子どもたちと一緒にわけていく）

良い実の集まりと悪い実の集まりができました。今日、イエスさまは「すべて良い木は良い実を結ぶ」と言われています。これら良い実の集まりは、良い木から出たということです。また、イエスさまは「悪い木は悪い実を結ぶ」とも言われています。これら悪い実の集まりは、悪い木から出たということです。私たちからは「良い実」も「悪い実」も出てしましますが、どうしてなのでしょう？

良い木は、イエスさまのことです。私たちがイエスさまにつながっているならば、私たちから出る言葉も「良い実」となるのです。私たちがイエスさまを忘れてしまうとき、私たちから出る言葉は「悪い実」となってしまうのです。ですから、私たちが「悪い」言葉を口にしてしまいそうなとき、少し口を開くのを待って、イエスさまを思い出してみましょ。う。「イエスさまなら、何と言われるか」って。

私たちはイエスさまによらなければ、「良い実」を結ぶことができません。そして、ときどきイエスさまのことを忘れてしまうのです。ですから私たちは、毎週この礼拝に集まって、聖書の言葉を聞いたり、さんびかを歌ったり、お祈りをしたりすることが大切なのです。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は ” こどもさんびか ” (日キ版) より

5 1 番

改訂 1 2 3 番

やってみよう

木の枝を 2 本用意する。

一方には紙に包んだ飴を糸でこどもの人数以上結びつける・

もう一方には紙くずを小さく丸めたものを飴の紙に包んで同じ数だけ結びつける。

1、良い木は良い実を結び、、は良い実を付ける、と言う事です。

悪い木は悪い実を付ける、ってイエスさまは言われました。

さあ、どっちが良い木でどっちが悪い木かな？

2、良い木から美味しい実を取りましょ。どっちかなあ、

こどもたちにそれぞれ選ばせて木の実(飴)を取らせる。

3、どっちも同じような木だからどっちが良い木でどっちが悪い木かなかなか分からないねえ。

4、人間もちょっと見ただけでは良い人か悪い人かなかなか分かりません。

優しそうに見えても誘拐犯のような怖い人もいるねえ。

みんなにはどんな良い実ができているかなあ？

A ちゃんは優しい実、B ちゃんはよくお手伝いできる実、C ちゃんは強い実、みんな神さまから沢山良い実をいただいているね。神さまに有り難うをしましょ。(お祈り)

話してみよう

あなたが悪い実(行いや言葉、思い)と感じるあなたの言動にどのようなものがありますか？

「悪い実」である言葉や行いは、どのように人を傷つけますか？ あなたは誰かの「悪い実」

で悲しい思いをしたことがありますか？ それについて分かち合ってみよう。

あなたの言動とイエスさまの言動を比べてみよう。

今週の聖句

「わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである」
マタイによる福音書 9章13節

ねらい

区別することについて考える機会とする。「徴税人や罪人」と交わらなかったファリサイ派の人々と「徴税人や罪人」と食事をするイエスの対照から学ぶ。

ポイント

- 1) 主イエスが私たちの間に来られた理由について考える。
- 2) 誰が「罪人」なのか、「わたし」はどこにいるのかを考える。

豆知識

- 1) 「ファリサイ」とは、区別するという意味である。彼らは律法を遵守しようと努めると同時に、「罪人」と交わって自分たちの努力が無にならないようにしたと言われる。
- 2) 食事のときになると、彼らは家に帰って行ったとも言われる。その食事の席に罪を犯した誰かがいたら、罪人と交わったことになるのを恐れたためと言われている。こうして彼らは自分自身の「正しさ」を保とうと考えた。そのような彼らにイエスが「正しい人を招くためではなく」と言われたのは、皮肉が混じっているようにも感じる。

説教

本当の意味で「正しい人」っているのでしょうか。自分が正しいと信じていても、違う立場の人からすれば、「それは間違っている」と見えることもあるでしょう。逆の場合だってあるはず。また、自分が正しいと言って、誰かの間違いを責めているとするなら、それはもはや本当の意味では、正しくはないのです。きっと、私たちにはいつも正しいということはないのだと思います。

ファリサイ派と呼ばれる人たちがいました。律法という神の命令を一生懸命に守っており、だから自分たちを正しい者と考えていました。せっかく正しい者であるのだからと、正しくない人たちと自分たちを区別していました。ファリサイ派の人たちは、徴税人や罪人とみなされた人たちと付き合うことをしませんでした。そうすることで、自分たちの「正しさ」を保つことができると信じていたのです。

そんなとき、イエスさまが徴税人や罪人と一緒に食事をしているのを見ました。ファリサイ派の人たちからすれば、それはとんでもないことに思えました。彼らにとって徴税人や罪人という人たちは、正しくない人たちで、付き合いはならないと考えられたからです。まして、一緒に食事をするということはあってはならないことでした。そこで、彼らは言うのです。「なぜ、あなたたちの先生は徴税人や罪人と一緒に食事をするのか」。

そして、イエスさまは彼らに言われます。「わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである」と。

私たちは誰に対してもいつも正しくいることができるわけではありません。それは、残念なことかもしれませんが。しかし、イエスさまはそのように正しくない私たちのために来てくださったのです。私たちにとって大切なことは、間違っただけを一切しないで正しくいることよりも、間違っただけをしたときに「ごめんなさい」と謝る心を持っているということなのです。

分級への展開

さんびしょう

* 讃美歌は ” こどもさんびか ” (日キ版) より

53番

改訂119番

やってみよう

こどもの背中にその人の役割の書いた紙を貼る。字じゃなくて絵でも良い。

イエスさま、・・・・・・・・・・罪人

おいしゃさま・・・・・・・・・・病気の人

学校の先生・・・・・・・・・・生徒

羊飼い・・・・・・・・・・ひつじ

魚屋さん・・・・・・・・・・魚

など、こどもの数に合うように組み合わせを作る。

自分がだれと組み合わせになるか、見つけた人から手をつないで座る。

奇数の場合は「正しい人」とか合わない名前をつけても良い。

役割を変わり合って何度も遊んでも良い。

話してみよう

自分が正しいと思ったことについて話してみよう。

最近、誰かに謝ったことについて話してみよう。その人は許してくれましたか？ そのとき、あなたはどんな気持ちでしたか？

自分が間違っているかもしれないと思ったことはありますか？ そのとき、あなたはどうしましたか？

周りに許してもらえないとき、どんな気持ちになると思いますか？ そして、許してもらえたら、どんな気持ちになると思いますか？

イエスさまが「罪人を招くために来た」のは、どうしてですか？ イエスさまは誰をゆるされるのですか？ ゆるしてもらったら、どういう気持ちになると思いますか？

イエスさまにゆるしてもらったあなたは、誰を許すことができますか？

あなたの周りにいる許してあげる人のことを考えてみよう。